

難聴生徒における人間関係形成能力を培う支援の工夫 ーVLFプログラムとソーシャルスキルトレーニングを通してー

八重瀬町立具志頭中学校教諭 比 嘉 智 子

内容の概要

難聴生徒の人間関係形成能力を培うために、VLFプログラムとソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、支援の工夫を図った。言語・協力学級で絵本を活用し、VLFプログラムを取り入れた道徳の授業を行った。また、言語学級でソーシャルスキルトレーニングを行い、それを島尻難聴・言語障害教育研究会中学部会で実践した。その結果、役割取得能力や人間関係形成スキルが高まり、難聴生徒における人間関係形成能力を培うことができた。

【キーワード】 難聴生徒 VLFプログラム 役割取得能力
ソーシャルスキルトレーニング 人間関係形成スキル

目 次

I	テーマ設定の理由	63
II	研究仮説と検証計画	
1	研究仮説	64
2	検証計画	64
III	研究内容	
1	聴覚障害とは	64
2	人間関係形成能力について	64
3	VLFプログラムと役割取得能力	65
4	ソーシャルスキルトレーニングについて	67
IV	授業実践	
1	主題名	68
2	設定理由	68
3	主題の目標	68
4	指導計画と評価計画	68
5	本時の学習	70
6	授業仮説の検証	72
V	研究の考察	
1	相手の気持ちを推測し、理解する能力が高まったか	73
2	人間関係形成スキルを培うことができたか	73
3	難聴生徒における人間関係形成能力を培うことができたか	73
VI	研究の成果と今後の課題	
I	研究の成果	74
2	今後の課題	74

難聴生徒における人間関係形成能力を培う支援の工夫

－VLFプログラムとソーシャルスキルトレーニングを通して－

八重瀬町立具志頭中学校教諭 比 嘉 智 子

I テーマ設定の理由

難聴生徒の現状

平成8年4月、沖縄県の中学校に初の言語学級が設置され11年目になる。中学校の言語学級の在籍は難聴生徒がほとんどである。難聴生徒に対する理解や個々の生徒の心理、学習及び社会的な側面についての生徒理解を図り、適切な学習環境を整備し、よりよい支援を行っていく必要がある。普通中学校に在籍する難聴生徒は、個々の生徒の実態により差はあるが、言語・協力学級の下で学習を行い、他生徒との交流も広く、楽しい学校生活を送っている。しかし、難聴というハンディキャップからの課題が多く、学習・社会面での影響を及ぼしている。聴き取りの困難さからくる学習の遅れや語彙力の不足、コミュニケーションがうまく図れないことから、豊かな人間関係を築かせることが難しい。難聴生徒の指導については、通常の教科の指導のみならず、個々の実態に応じた特別な支援が必要になってくる。

対象生徒の実態

本研究の対象生徒は先天性両耳高度感音性難聴(左105dB・右118dB)で、補聴器を装用し、授業中はFMマイクを使用している。身体的にも乳児の時から病弱で、発育遅延という診断を受けた。その後、地域の療育センター等に通園。小学校では通常の学級に在籍し、週2～3回程度、他小学校の通級指導教室で言語訓練等を行った。そして、中学校に入学し、国語、社会、数学、理科及び英語の授業は言語学級で個別指導を受けている。その他の教科や領域の授業及び学校生活は、協力学級で行っている。

対象生徒は学校生活の中で友人や教師に対して、上手にあいさつができなかったり、友人に自分自身の気持ちを伝えられないことがあった。また、友人とのかかわりが受け身的であったり、話す内容に広がりがなかったため、協力学級の中では傍観者になることもしばしば見られた。そこで、豊かな人間関係を築かせるために、人間関係形成能力を培いたい。

指導の手立て

対象生徒が人間関係形成能力を培うためには、役割取得能力と人間関係形成スキルを高めたい。まず、対象生徒が相手の気持ちを推測し、理解する能力(役割取得能力)を高めるために、「思いやり育成プログラムVLF (Voices of Love and Freedom)」(以下VLFプログラムと略す)を道德の時間に取り入れる。言語・協力学級での取組を通して、対象生徒が、自分と他者の視点の違いを意識し、他者の感情や思考などの心の内側を推測し、それに基づいて自分の役割行動を決定する能力が身に付くと考ええる。

次に、ソーシャルスキルを身に付けさせたい。そのために、人間関係形成スキルを中心にソーシャルスキルトレーニング(以下SSTと略す)を取り入れる。「あいさつの仕方」や「上手な聴き方」のスキル等を事前学習として言語学級で言語的教示、モデリング、行動リハーサル及びフィードバックと強化を行う。島尻地区難聴・言語障害教育研究会中学部会(以下島難言研小集団と略す)の難聴中学生による校外学習会では、さらにフィードバックと強化を行い定着化を図る。ソーシャルスキルが身に付くことで、人間関係形成スキルが身に付くと考ええる。

II 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

言語学級や協力学級及び島難言研小集団において、以下のような支援を行えば、難聴生徒の人間関係形成能力を培うことができるであろう。

- (1) 相手の気持ちを推測し、理解する能力（役割取得能力）を高めさせるために、道徳の時間を通して、V L Fプログラムを取り入れる。
- (2) 人間関係形成スキルを培うために、言語学級や島難言研小集団でS S Tを取り入れる。島難言研小集団の校外学習会の事前学習として言語学級の個別指導で言語的教示、モデリング、行動リハーサル及びフィードバックと強化を行う。さらに、校外学習会においてフィードバックと強化を行い定着化を図る。

2 検証計画

対象生徒 言語学級1人 主 題 名 人間関係形成 能力を培う		生徒 実 態	・役割取得能力検査から、対象生徒は泣く・笑うなどの手がかりから相手の気持ちを判断できるが、相手の心の奥にある本当の気持ちを考えることができないステージ0－Bである。 ・人間関係形成スキルの調査から、主に、あいさつや遊んでいる友人の中に入ることに、友人の考えと違う時、その理由を友人に伝えること等を苦手としている。 ・エゴグラムから、対象生徒はM型の明朗パターンである。	
検証項目	検証の場面		検 証 の 観 点	検証の方法と時期
投入 組 (1)	言語・協力学級で V L Fを取り入れ た道徳の時間		V L Fプログラムを取り入れることは、相手の気持ちを推測し、理解する能力（役割取得能力）をステージ1へ高めさせる上で有効であるか。	役割取得能力検査を5月と7月中旬に実施する。事前と事後の変容を分析から検証する。
投入 組 (2)	島難言研小集団の 校外学習会		S S Tを取り入れることは、人間関係形成スキルを培う上で有効であるか。	人間関係形成スキルの調査を5月と7月中旬に実施する。事前と事後の変容を分析から検証する。
結 果	言語・協力学級及び島難言研小集団の校外学習会		V L FプログラムとS S Tを取り入れることは、難聴生徒における人間関係形成能力を培う上で有効であるか。	エゴグラムを5月と7月中旬に実施する。事前と事後の変容を分析から検証する。

III 研究内容

1 聴覚障害とは

聞き取りが困難

話すことも困難

言語学級では

「聴覚障害とは、なんらかの原因のため、聞く力が不十分であったり、ほとんど聞こえなかったりする状態を指します。(中略)聴覚に障害があると、一般的に、音や話し言葉の聞き取りが困難になります。そのことが話し言葉の発達を妨げ、結果として、話すことにも支障をきたすことが多くなります。」(文部省平成8年「一人一人を大切にした教育 ～障害等に配慮して～」より抜粋)

言語学級は聴覚障害の程度が軽度・中度の子どもを対象に、言葉や聴こえの学習や教科の補充的な学習を行う場である。本研究の対象生徒は、先天性両耳高度感音性難聴であるが、聴覚障害を理解した上で教育的配慮を行い、対象生徒に合った指導及び支援が必要である。

2 人間関係形成能力について

コミュニケーションが困難

(1) 難聴生徒における人間関係形成能力の課題

聴覚障害者は、聴こえにくさや言語能力の弱さからコミュニケーション能力において困難を生じることがたびたび見られる。そのため、相手の気持ちを推測し、理解する能力や人間関係形成スキルがやや弱いように感じられる。本研究では、言語

・協力学級及び島難言研小集団の中で人間関係形成能力を培っていきたい。

(2) 人間関係形成能力とは

人間関係形成能力とは、他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら多様な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同をしてものごとに取り組む能力のことである。また、この能力は自他の理解能力とコミュニケーション能力の二つの能力から構成される。前者は、自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動できる能力である。後者は、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力である。

本研究では、この二つの能力を高めるために、VLFプログラムを行い、役割取得能力をステージ1へ高めさせたい。また、SSTを取り入れることで、人間関係形成スキルを身に付けさせたい。

自他の理解能力

コミュニケーション能力

3 VLFプログラムと役割取得能力

(1) VLFとVLFプログラム

VLFとは、自己犠牲を伴う思いやりではなく、自分を生かし、他者を生かし、違う個性を認めながら、さまざまな対人葛藤を解決していく力を養うことを目的としている。それを達成するために、道徳の授業の中で表1の4つのステップを取り入れたVLFプログラムを行う。

対人葛藤を解決していく力

表1 VLFの考え方を取り入れたVLFプログラムの基本構想

VLF 指導過程	VLFでの指導内容	VLFのねらいと役割取得能力の発達	留意点	対象生徒への支援
①結びつき ステップ1	教師が個人的な体験を子どもに話す。	教師と生徒のかかわりを豊かにする。	対人関係の葛藤にかかわるような資料を選定。	FMマイクの使用。 ゆっくり話をする。
②話合い ステップ2	ペアをつくり、パートナーインタビューを行う。一人一人が「聴き手」と「話し手」の両方を体験する(SST)。	物語を読み、途中の対人関係の葛藤状況で立ち止まり、登場人物の気持ちや立場を推測する。	資料は理解に時間がかからない、感情移入のやさしいものを選ぶ。	事前に資料の読み取りを行う。対象生徒が話しやすい生徒をペアに組む。
③実践 ステップ3	人と人が葛藤する場面を解決するための行動を考えさせる。ロールプレイによって、さまざまな視点を体験する(SST)。	ロールプレイという体験から、立場が異なると多様な考え方や気持ちがあることに気づく。	活動が最適になるようにペアを組み合わせ、ペアの相互作用を支援する。	ロールプレイによって、自分と他者との視点の違いや相手の気持ちに気づかせる発問を行う。
④表現 ステップ4	発達段階に応じて、日記(自分を表現する)、手紙(相手の立場を意識する)、物語の続き(第三者の立場を理解する)等を書く。	ロールプレイという体験から、書く・描くという表現活動を通して、自分の心内に内化した思いを表現する。	深く考える時間をとる。	表現活動は個別指導で行い、対象生徒自身の感情や思考を内省させる。

(2) 役割取得能力とは

ハーバード大学のセルマン(Selman, R. L.)は、「相手の気持ちを推測し、理解する能力」のことを「役割取得能力」と提唱。役割取得能力は、対人関係に生じた葛藤の解決や道徳的判断を行う前提になると考えている。具体的には、次のように述べている。

- ① 自分と他者の考え方の違いを意識すること
- ② 他者の感情や思考などの心の内側を推測すること
- ③ それに基づいて自分の役割行動を決定すること

また、彼は役割取得能力の発達段階が表2のように、幼児期から青年期までを通して、5段階あることを明らかにしている。

役割取得能力検査結果から、対象生徒は泣く・笑うなどの手がかりで相手の気持ちを判断できるが、相手の心の奥にある本当の気持ちを考えることができないステージ0-Bであり、VLFプログラムを通して、相手は与えられた情報や状況が違

セルマン

対人関係に生じた葛藤の解決

うと、それぞれ違った感情を持ったり、異なった考え方を持つことがわかるステージ1までに高めさせたい。そのためには、協力学級で役割取得能力の高い友人の考え方にふれさせることで、対象生徒に友人との考え方の違いを意識させることが必要である。また、言語学級での個別指導においては、対象生徒自身の感情や思考について内省させ、他者の感情や思考の違いを意識させたい。

表2 役割取得能力の発達段階

ステージ	役割取得能力の発達段階	役割取得能力の発達段階内容
ステージ0-A	自己中心的な視点	他人の表面的な感情や表情は理解するが、自分の感情と混合することが多い。同じ状況にいても、他者と自己とでは違った見方をするところがあることに気づかない。
ステージ0-B		泣く・笑うなどはっきりした手がかりがあると、相手の気持ちを判断することができる。しかし、相手の心の奥にある本当の気持ちにまで考えが及ばない。
ステージ1	主観的役割取得	与えられた情報や状況が違っているとそれぞれ違った感情を持ったり、異なった考え方を持つことはわかる。しかし、相手の立場に立つことができず、一つの見方にとらわれる傾向がある。
ステージ2	自己内省的役割取得	自分の感情や考えを内省できる。相手の感情や思考をどう思っているかを予測できる。
ステージ3	相互的役割取得	第三者の視点を想定できる。人間は自己と他者の両方の考えや感情を考慮して行動していることに気づく。
ステージ4	社会および慣習のシステムの役割取得	相互的なものの見方をとることが判るが常にそれが完全な理解に向かうものでないことも知っている。そして、社会的慣習は全ての一般的他者の立場や役割、経験に拘わらず必要であることが理解されている。

(荒木ほか, 1986)

(3) 役割取得能力検査について

役割取得能力検査は三枚の図版を提示し、資料1の役割取得課題を対象生徒に聴かせ、五つの基本発問を行う。

基本発問③「木に登っている順子さんをお父さんが見たら、お父さんはどんな気持ちになると思う」について、対象生徒は「約束を破っている、裏切られた気持ち。木から降りようとした時、すべらせて落ちたから。」と答えた。つまり、対象生徒の役割取得能力は、お父さんの心の奥にある「心配」という気持ちにまで考えが及ばず、「約束」といった外的な手がかりで判断をしているステージ0-Bである。但し、ステージ0-Bという検査結果は、一つの言葉にこだわったり、内的特性を捉えにくいという難聴の特性とも思われる。

順子さんは木登りが上手です。ある日、木から落ちてしまい、それを見ていたお父さんがビックリをして順子さんを叱りました。そして、順子さんは、木には登らない約束をお父さんとしました。数日後、隣の太郎君の子猫が木から降りられず泣いています。太郎君はまだ小さくて木登りができません。早くしないと子猫は落ちてしまうかもしれません。順子さんはお父さんとの約束を思い出して困ってしまいました。

資料1 役割取得課題

(4) VLFプログラムの授業の中で、難聴生徒の役割取得能力を高めるための支援の工夫

① 発問の工夫

ステージ1への役割取得をうながす発問を取り入れる。例えば、「もし、あなたがAさんだったら、Aさんはどんな気持ちになるのかな。」といった、相手の心の奥にある本当の気持ちに気づかせるような発問を工夫する。

② モラルジレンマの大型絵本の活用

難聴生徒は情報を得るためには聴くことより、見ることの方が有効である。そ

ステージ0-B

ステージ1

三枚の図版

五つの基本発問

役割取得課題

役割取得をうながす発問とは

ショートエク
ササイズ

座席はコの字
型

4 ソーシャルスキルトレーニングについて

人づきあいの
仕方やコツ

のため、資料の読み取りが行いやすい大型絵本を活用する。

③ 感受性の促進に関するエンカウンターを活用

対象生徒が役割取得能力の高い生徒の発言を聴き、推測しきれなかった相手の気持ちに気づくには、協力学級の生徒同士の話合い活動がスムーズに行われなければならない。そのために、毎時間の道徳の授業の導入で5分程度の自他の心の思いを感じることをねらいとするショートエクササイズを取り入れ、話合い活動が活発に行われるような雰囲気づくりを行う。

④ TTを取り入れる

対象生徒は協力学級で相手の声が聴こえにくいことや、言葉の意味が理解しにくいことがある。そのため、対象生徒への適切な支援を行うために、TTを取り入れ、教師はその場に合った支援を行う。

⑤ 座席の工夫

パートナーインタビューやロールプレイを黒板前で発表させるために、座席をコの字型にする。そうすることで、対象生徒が見やすくなる。また、対象生徒は利き目が右目であるため、前列の黒板に向かって左側に座席を置く。

(1) ソーシャルスキルトレーニングとは

「ソーシャル」とは、社会的・対人的・人づきあいである。「スキル」とは、技・技能・技術、つまりコツの意味である。人は体験を通して学んだ人づきあいの仕方やコツを覚えていく。それを訓練することを「ソーシャルスキルトレーニング」という。

対象生徒は上手にあいさつができなかったり、友人に自分自身の気持ちを伝えられないことが見られるため、SSTを通して表3の人間関係形成スキルを身に付けさせたい。

表3 人間関係形成スキル

題 材 名	ね ら い	獲得目標とするスキル
①あいさつの仕方 「あいさつをしよう」	あいさつの仕方を身に付け、いいあいさつを体験することで、心地よさを味わい、進んであいさつができるように練習する。	①だれにでもあいさつができる ②相手の目を見てあいさつをする ③元気な声ではっきりとあいさつができる
②上手な聴き方 「元気の出る聴き方」	体をむける、話す人を見る、相づちを打つの三つのルールを明確化して体験することで、あらためて聴き方を身に付ける。	①相手に体を向ける ②相手を見る ③相づちを打つ ④最後まで話を聴く ⑤質問する ⑥相手の言いたいことを繰り返す
③仲間の入り方 「いーれて」	一人一人の仲間に入るスキルを高める。練習の過程で受容的な人間関係を体験し、自分の意志を伝えやすくする。	①近づく ②きちんと相手を見る ③聞こえる声で言う ④笑顔で言う ⑤言葉をかける
④気持ちをわかって働きかける 「どんな気持ち」	表情カードや場面カードを使って、表情や状況等を読み取る訓練をする。実際の生活場面にも応用できるように練習する。	①相手の表情から気持ちを知る ②他者と共感している自分の気持ちに気づく ③自分の気持ちを表現し、表情で表す

言語的教示

モデリング

行動リハーサル

フィードバックと強化

定着化

(2) ソーシャルスキルを身に付けさせるための支援の工夫

① SSTを行う場の工夫

島難言研小集団の校外学習会の事前学習として、言語学級で個別指導を行う。主に、ソーシャルスキルの「あいさつの仕方」や「上手な聴き方」等で言語的教示→モデリング→行動リハーサル→フィードバックと強化を行う。さらに、そのねらいが達成できたかを実際の場面である島難言研小集団の校外学習会でフィードバックと強化を行い、定着化を図る。

② 体験の場を多く設定する

定着化を図るために、島難言研小集団の校外学習会以外でも体験の場を多く設定する。そのためには、「個別の指導計画」に基づいて、学校生活では全職員で指導を行う。学校生活以外では、保護者への協力をお願いし、表3の人間関係形成スキルが身に付けられるように取り組んでいく。

IV 授業実践

- 1 主題名 人間関係形成能力を培う
- 2 設定理由

絵本の活用

道徳の内容項目2-(2) 思いやり

- (1) 主題観 (省略)
- (2) 生徒観 (省略)
- (3) 指導観

① VLFプログラムの指導観

VLFプログラムで、役割取得能力ステージ0-Bからステージ1へ高めるために、絵本「にじいろのさかな」(1時間扱い)「そらまめくんのベッド」(3時間扱い)を活用する。「にじいろのさかな」は道徳の内容項目2-(2)思いやりをねらいとして取り扱う。「そらまめくんのベッド」はさらに思いやりの心を深めるために取り入れる。第1時はステップ1・2。第2時はステップ3。第3時はステップ4とする。そして、第1時の事前指導として、対象生徒に協力学級での指導の流れを把握させるための個別指導を行う。また、第2時の事後にも個別指導を行う。この事後指導では、第2時に行った役割取得能力の高い友人の意見を思い出させ、対象生徒自身の感情や思考について内省させる。内省することで、相手の気持ちを推測し、理解する能力をステージ1へ高めていく。

さらに、道徳の授業では、TTを取り入れる。T1が全体の指導及び対象生徒の支援を行う。T2はT1が対象生徒の支援を行っている時に、全体の指導を行う形で授業を展開していく。

② SSTの指導観

SSTでは、「あいさつの仕方」「上手な聴き方」「仲間の入り方」「気持ちをわかって働きかける」を取り入れる。言語学級においてこれまでの自分を振り返り対人関係の基本的なマナーやルールを学ぶ。何度も繰り返しスキル体験をさせ、振り返りをする。さらに、島難言研小集団の校外学習会でフィードバックと強化を行い、実践することで定着化を図りたい。

3 主題の目標

主 題 の 目 標	
VLFプログラム	絵本を通して、登場する生き物は与えられた情報や状況が違うと、それぞれ違った感情を持ったり、異なった考え方を持つことがわかる。また、相手の立場に立つことはできないが、相手の心の奥にある本当の気持ちに気づくことができる。(役割取得能力ステージ1)
ソーシャルスキルトレーニング	「あいさつの仕方」「上手な聴き方」「仲間の入り方」「気持ちをわかって働きかける」を通して、基本的なマナーやルールを理解・実践する。さらに、島難言研小集団の校外学習会でフィードバックと強化を行い、実践することで定着できる。

4 指導計画と評価計画

時	形態	題 材 名	VLFとSSTの目標	学 習 活 動 (●VLF ★SST)	判 定 基 準		
					A	B	C
1	学級活動 (個別)	「自己紹介及び学校紹介」事前学習をしよう(SST)	小集団の体験学習会で、自分や学校のことを他者に理解してもらうために、自分のことや自分の学校のことを知る ★紹介したことをワークシートを見て説明できる	★自分のいいところ探しをする ★自分の学校のことを知る ★紹介したことをワークシートにまとめる	自分のことや自分の学校のことをワークシートを見ずに説明できた	自分のことや自分の学校のことをワークシートを見て説明できた	自分のことや自分の学校のことをワークシートにまとめることができた

5	学級活動(個別)	「あいさつの仕方」(SST)	○あいさつの仕方を理解できる ○進んであいさつができるように練習する	★相手の目を見てあいさつをする ★元気な声ではっきりとあいさつをする	あいさつの仕方を理解し、相手を見て、元気な声であいさつの練習ができた	あいさつの仕方を理解し、あいさつの練習ができた	あいさつの仕方は理解できた
6	学級活動(個別)	「上手な聴き方」(SST)	相手に体をむけ、相手を見て、相づちを打ちながら話を聴くことができる	★相手に体を向ける ★相手を見る ★相づちを打つ ★最後まで話を聴く ★質問する ★相手の言いたいことを繰り返す	相手に体を向け、相手を見て、相づちを打ちながら話を聴くことができた	相手に体を向け、相手を見ながら話を聴くことができた	相手に体を向けながら話を聴くことができた
7	学級活動(個別)	「仲間の入り方」(SST)	相手に近づき、相手を見ながら、聞こえる声で言葉をかけることが理解できる	★近づく ★きちんと相手を見る ★聞こえる声で言う ★笑顔で言う ★言葉をかける	仲間の入り方がわかり、入れてもらえなかった時の対応の仕方でも理解できた	相手に近づき、相手を見ながら、聞こえる声で言葉をかけることが理解できた	聞こえる声で言葉をかけることは理解できた
8	道徳(個別)	「温かい心」2-(2)思いやり『そらまめくんのベッド』①(VLF)	インタビューやロールプレイを通して、登場人物の立場に立つことができる	●そらまめくんやえだまめくんの立場に立つて考える ●そらまめくんになったつもりで日記を書く	登場人物の立場に立つてワークシートにまとめることができ、思いやりの心が理解できた	登場人物の立場に立つてワークシートにまとめることができた	登場人物の立場に立つことはできなかったがワークシートにまとめることができた
9	道徳(協力学級)	「温かい心」2-(2)思いやり『そらまめくんのベッド』②(VLF)	そらまめくんやえだまめくんのそれぞれの立場から思いやりの心の大切さに気づくことができる	●そらまめくんとえだまめくんのそれぞれの立場に立つてパートナーインタビューをする ●対象生徒と友人との考え方の違いに気づく	えだまめくんの立場から、そらまめくんの感情や思考について考えることができ、思いやりの心の大切さに気づいた	えだまめくんの感情や思考について考えることができ、思いやりの心に気づいた	えだまめくんの行動に着目し、考えることができた
11	道徳(協力学級) (本時)	「温かい心」2-(2)思いやり『そらまめくんのベッド』③(VLF)	おかあさんうずらの気持ち理解し、思いやりの心で親切に行動することの大切さに気づくことができる	●そらまめくんとおかあさんうずらの立場に立つてロールプレイをする ●対象生徒と友人との考え方の違いに気づく	おかあさんうずらの立場から、そらまめくんの感情や思考について考えることができ、思いやりの心で親切に行動することの大切さに気づいた	おかあさんうずらの感情や思考について考えることができ、思いやりの心の大切さに気づいた	おかあさんうずらの行動に着目し、考えることができた
12	道徳(個別)	「温かい心」2-(2)思いやり『そらまめくんのベッド』④(VLF)	協力学級の友人の意見から自分の感情や思考について内省できる	●そらまめくんへの手紙を書くことで、自分自身を内省する	自分の感情や思考について内省でき、他者の立場に立つて考えることができた	自分の感情や思考について内省できた	感想のみをまとめることができた
14	小集団	「先輩の職場を訪ねて」(SST)	○上手にあいさつができる ○相手の話を聴くことができる ○相手に近づき、言葉をかけることができる ○相手の表情などから気持ちを読み取ることができる	★あいさつをする ★相手の話を聴く ★相手に近づき、言葉をかける ★相手の気持ちをわかって行動する	「あいさつの仕方」「上手な聴き方」「仲間の入り方」「気持ちをわかって働きかける」のスキルがすべて実践できた	「あいさつの仕方」「上手な聴き方」「仲間の入り方」「気持ちをわかって働きかける」のスキルのうち、二つ以上実践できた	「あいさつの仕方」「上手な聴き方」「仲間の入り方」「気持ちをわかって働きかける」のスキルのうち、一つだけ実践できた

5 本時の学習 《 道徳 》（2時間目／3時間）

- (1) 主題名 「 温かい心 」 〈2－(2)思いやり〉
 (2) 資料名 大型絵本「そらめくんのベッド」 なかやみわ 作・絵 福音館書店
 (3) 主題設定の理由

- ① 価値観 （省略） ② 生徒の実態 （省略） ③ 資料観 （省略）
 ④ 指導観

ア 第1時

教師の体験談を聴き、教師と生徒のかかわりを豊かにする。また、そらめくんのベッドがなくなった場面までを見て、対象生徒は自分の意見を表現し、友人の意見から相手の気持ちを考える。（パートナーインタビュー）

イ 第2時〈本時〉

そらめくんのベッドが見つかった場面までを読む。そらめくんやおかあさんうずらのそれぞれの立場に立って葛藤場面を話し合う。その後、ロールプレイを行うことにより、おかあさんうずらの感情や思考について深めていきたい。そして、対象生徒に協力学級の友人との考え方の違いに気づかせ、友人の心の内側を推測できるようにする。

ウ 第3時

第3時で個別指導を行う。第2時のロールプレイという体験から、おかあさんうずらの感情や思考について深く考えさせる。そして、そらめくんへの手紙を書くという表現活動を行うことで対象生徒自身に振り返り、思いやりの心を持つ大切さを深めていく。

(4) 本時のねらい

おかあさんうずらの気持ちを理解し、思いやりの心で親切に行動することの大切さに気づく。

(5) 本時の授業仮説

- ① 協力学級の役割取得能力の高い生徒の考え方にふれることで、対象生徒は友人との考え方の違いに気づくであろう。
 ② 役割取得能力をうながす発問をすることで、おかあさんうずらの感情や思考について考えることができる。

(6) 準備 大型絵本「そらめくんのベッド」、役割名札、ワークシート2

(7) 展開

	VLFのねらい	学 習 活 動	協力学級における教師の支援		●対象生徒への手だて □仮説の検証 ◇本時の評価
			T 1 ○協力学級 ●対象生徒	T 2	
導入 5分	ミニエクササイズを行うことで学級の中でも話しやすい雰囲気高める	1. ミニエクササイズ「はい、ポーズ！」 ○教師のやり方の説明を聞く ○指名された班は黒板前に立つ ○「はい、ポーズ！」のかけ声に合わせて、ポーズをとる ○「何のポーズですか？」と声を合わせて聞く。 ポーズをした生徒は「これは～です」と答える ○感想をみんなの前で発表する	○「なるほど」「いいね」などの相づちを打つようにうながす（SST：上手な聴き方） ○発表後、今日の資料名を黒板に提示する		●事前に「はい、ポーズ！」のやり方の説明を行っておく（T1）
	ロールプレイよりそらめくんやおかあさんうずらの	2. 班でロールプレイをする ○絵本『そらめくんのベッド』の「そらめくんのベッドが見つかった」場面までを聴く ○そらめくん役やおかあさんうずら役になりそらめくんのベッドが見つかったいきさつや、それぞれの気持ちを班でロールプレイを	○大型絵本を読む そらめくんやおかあさんうずらの立場に立ってそれぞれの気持ちを話し合ってみましょう		●事前にワークシートに自分の考えをまとめておく（T1） ●対象生徒が話しやすい友人を同じ班に組む（T1）

展 開	立場に立 て思考 できる友 人と自分 の考えの 違いに気 づかせる	する (ロールプレイの状況を見ながら発問を行う) ★発問 もし、そらめくんがおかあさんうずらに ベッドを返して欲しいと言ったら、おかあ さんうずらはどんな気持ちになるでしょう ★予想する反応 ・そらめくんは意地悪だと思った ・おかあさんうずらはベッドを返したくない ・ひよこが誕生するまで待つてほしい ★発問 おかあさんうずらはどんな気持ちで卵を温 めていると思いますか ★予想する反応 ・大切に温めている ・早くひよこが生まれて欲しいと思っている ・そらめくんのベッドがあつてよかったと いう気持ち ★発問 もし、そらめくんがベッドを貸してあげ ると言ったら、おかあさんうずらはどんな 気持ちになるでしょう ★予想する反応 ・うれしい気持ち ・そらめくんがベッドを貸してくれたら、 大事に卵を温めようと思った ・安心して卵を温めることができると思った ★発問 おかあさんうずらは、ベッドを貸してくれ たそらめくんのことをどんなふうに思っ ているでしょう ★予想する反応 ・そらめくんはやさしいと思った ・そらめくんがベッドを貸してくれたので、 たいへん助かったという気持ち ・そらめくんがベッドを貸してくれたので、 無事にひよこが生まれた。ありがとうとい う感謝の気持ち	○ロールプレイを行 う前にワークシ ート2にまとめるよ う指示をする ●対象生徒の必要に 応じて声かけを行 う ●ロールプレイの時 同じ班の友人にも 必要に応じて発問 を行う ●発問については、 ロールプレイの状 況を見ながら、行 う ●対象生徒が発表を している班の友人 の音が聴こえるよ うFMマイクをも たせる	○机間巡視をし、 おかあさんう ずらがそらめ くんのことを どのように 考えているか、 自分の意見を まとめるよう 声かけを行う ○班ごとにロー ルプレイを行 うように指示 をする ○役割を交代す るよう指示を する	●班の友人にFMマイクを もたせる (T1) ○仮説の検証(1) 対象生徒は友人との考 え方の違いに気づいた か 〈観察及び ワークシート2〉 ○仮説の検証(2) おかあさんうずらの 感情や思考について考 えることができたか 〈観察及び ワークシート2〉 ●ロールプレイを行う生 徒にFMマイクをもたせ る (T1)
38 分	おかあさ んうずら の感情や 思考を理 解し、思 いやりの 心に気づ かせる	3. 他の班のロールプレイを見て、考える ○他の班の発表を見ることで、そらめくんや おかあさんうずらの感情や思考に気づかせる ★発問 (フロアーから意見を聞く) おかあさんうずらの立場に立った○○さん の意見に対して、あなたはどのように思いますか ★予想する反応 ・同じ意見です。そらめくんがベッドを返 して欲しいと言うと、おかあさんうずらは 困るし、かわいそう。せめて、ひよこが誕 生するまで待つべきだと思う ・ベッドを返して欲しいという意見は、冷た いと思う。おかあさんうずらもかわいそう	おかあさんうずらはどんな気持ちで そらめくんのことを考えたと思 いますか ●ロールプレイを行 っている生徒の意 見や教師の発問を 随時、確認をする (要約筆記の形で)	○いくつかの班 のロールプレ イをさせる ○どちらの役割 を演じている のかわかるよ うに、名札を もたせる	
終 末 7 分	まとめ	4. まとめ ○他の班のロールプレイ後、気づいたことをワ ークシート2にまとめる ○記入したワークシートの感想を発表する	○いくつかの班のロー ルプレイを見て 気づいたことをワ ークシートにまと めるよう指示をす る ○ワークシートの感 想を何名かに発表 させる		◇本時の評価 おかあさんうずらの気 持ちは理解し、思いや りの心で親切にすること の大切さに気づいた か 〈ワークシート2〉

(8) 評価

おかあさんうずらの気持ちを理解し、思いやりの心で親切にすることの大切さに気づいたか。

6 授業仮説の検証

表4は授業仮説について、観察者が見た対象生徒の評価である。その結果をもとに分析及び考察をする。

(1) 「対象生徒は役割取得能力の高い友人との考え方の違いに気づいたか」

観察者が見た対象生徒の評価は、表4で示されているように自分と友人との違いに気づくことができた。

また、資料2は、ワークシート2『みんなの意見を聞いて、感じたことやわかったことなどをまとめてみましょう。』の対象生徒の感想である。資料2から、対象生徒は学級の友人の意見をしっかりと聴いており、自分自身との考え方の違いに気づくことができています。そのため、対象生徒は友人との意見の違いに気づいているので、次は、その判断・理由づけの違いに気づけられるよう、個別指導において深めていく必要がある。

表4 検証授業の視点（対象生徒の評価）

	観察の視点	評価基準			評価	場面	評価の方法
		A	B	C			
仮説①	対象生徒は、役割取得能力の高い友人の考え方にふれ、対象生徒との考え方の違いに気づいたか	対象生徒は、自分の判断・理由づけと友人の判断・理由づけの違いに気づき、なぜそう思うかと友人に質問をしていた	対象生徒は、自分の判断・理由づけと友人の判断・理由づけの違いに気づいた	対象生徒は、自分の判断と理由づけを確認できた	B	ロールプレイ	観察、ワークシート
仮説②	おかあさんうずらの感情や思考について考えることができたか	おかあさんうずらの立場から、そらめめくんの感情や思考について考えることができた	おかあさんうずらの感情や思考について考えることができた	おかあさんうずらの行動に着目し、考えることができた	B	ロールプレイ、発問、ワークシート	観察、ワークシート

(2) 「おかあさんうずらの感情や思考について考えることができたか」

表4から観察者が見た対象生徒の評価は、おかあさんうずらの感情や思考について考えることができた。

また、資料3は、ワークシート2『あなたがおかあさんうずらだったら、どんな気持ちになりますか考えてみましょう。』について対象生徒が記入したものである。資料3から、対象生徒はおかあさんうずらの立場に立って考え、おかあさんうずらの内的特性を推測することができています。次は、おかあさんうずらの立場からそらめめくんの感情や思考について考えられるよう、個別指導において深めていく必要がある。

【対象生徒の感想】

みんなの意見と私の意見は、ちがっていました。いろんな意見をきいてよかったです。

【協力学級生徒の感想】

そらめめくんはベッドを見つけて返してほしいと思っていたけど人によっては快い意見がでたり、逆の意見がでたりして一人一人意見が違うんだなあと思った。返せない理由とかもちゃんと伝えられていて良かった。

資料2 感じたことわかったこと

あっ！鳥がボクのベッドを！まっ…いいか…タマゴをあたためてるから…かしてあげることにしよ…。どうぞかりてください。



ありがとうございます。落ちていただけて、勝手につかったらダメだけど、急にうみたくなくて、このベッドがあったから仕方なく、かりてるの。ホントにゴメンネ。
子どもがちゃんと育つようにとねがっている。

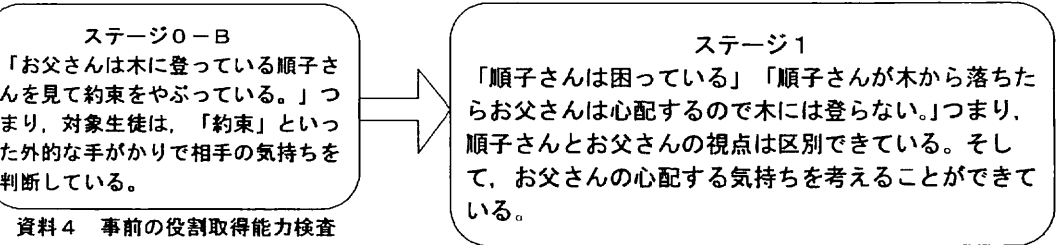
資料3 ワクシート2

V 研究の考察

1 道徳の時間にV L Fプログラムを取り入れたことによって、相手の気持ちを推測し、理解する能力（役割取得能力）が高まったか

ステージ1へ

資料4・5は事前（5月）と事後（7月中旬）の役割取得能力検査である。この検査から、対象生徒の役割取得能力はステージ0-Bからステージ1へ高まっている。
資料4で示しているように、5月の検査では、「約束」という手がかりから相手の気持ちを判断しているが、相手の心の奥にある本当の気持ちを考えることができないステージ0-Bであった。しかし、V L Fプログラムを取り入れた道徳を行った後の7月中旬の検査では、資料5のように、順子さんに木には登って欲しくないお父さんの「心配」する気持ちまで考えが及び、ステージ1に高まっている。さらに、お父さんの視点から順子さんの行動を判断できるステージ2へと高めていきたい。



資料4 事前の役割取得能力検査

資料5 事後の役割取得能力検査

2 言語学級や島難言研小集団でS S Tを取り入れたことによって、島難言研小集団の校外学習会でフィードバックと強化をし定着化を図ることで、人間関係形成スキルを培うことができたか

仲間の入り方のスキル

図1は、事前（5月）と事後（7月中旬）の人間関係形成スキルの調査結果である。
対象生徒の事前の自己評価では、7項目のうち4項目はあまりしないであった。特に、「相手に思ったことが言える」では、ぜんぜんしないであった。自分の感情をコントロールしながら適切な自己表現ができる能力が低いことを対象生徒自身も気づいていた。しかし、S S T後は「相手に思ったことが言える」がぜんぜんしないからあまりしないへ、「自分から誰かに話をしようとする」とドキドキしないがあまりしないから時々そうへ上昇し、仲間の入り方のスキルが変容した。第14時の島難言研小集団の校外学習会で対象生徒自ら質問を行うために相手に近づいて行けたことから対象生徒は自信が持てたと考えられる。今後は、仲間の入り方以外の人間関係形成スキルを校外学習会に取り入れることで、さらに、対象生徒のソーシャルスキルが高まっていくと考えられる。

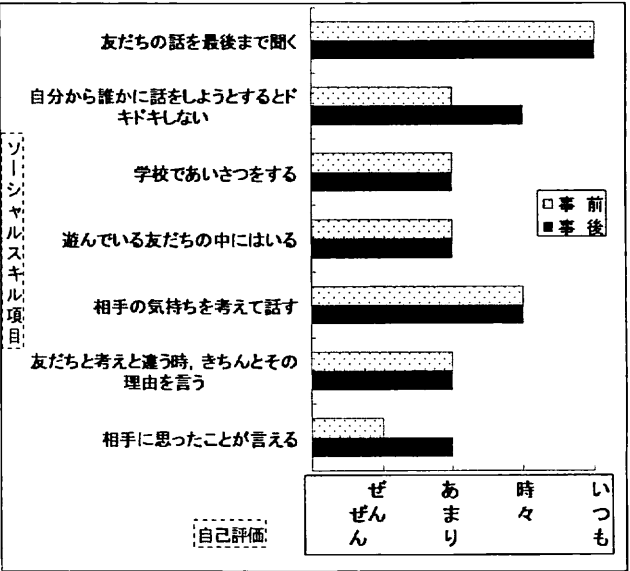


図1 事前と事後の人間関係形成スキルの調査

3 V L FプログラムとS S Tを取り入れたことで、難聴生徒における人間関係形成能力を培うことができたか

図2は、事前（5月）と事後（7月中旬）のエゴグラムである。エゴグラムとは、心の中の5つの状態（C P・N P・A・F C・A C）をグラフにしたものである。そ

M型の明朗パターン

へ型の円満パターン

CP (厳しいお父さん)

A (知的なお兄さん)

のグラフは、主に7つのパターン（7つの生き癖）に分類される。

対象生徒は図2のように、事前はM型の明朗パターンから事後はへ型の円満パターンへと変容が見られた。事前のM型パターンでは、CP（厳しいお父さん）とA（知的なお兄さん）が低い。CPを高めるため、「私は…と思う」と相手に伝えたり、はっきり自分の考えを述べることを確認した。また、Aを高めるため、「もう少し、くわしく話してくれる？」と説明を求めたり、同じ状況で他者ならどう考え、どう行動するかを対象生徒と確認をし、VLFプログラムとSSTを行った。その結果、事後はCPとAが高まり、一般に対人関係におけるトラブルが少なく、自他共に肯定的な人と言われるへ型の円満パターンへと変容した。

難聴という生徒の特性から、VLFプログラムを通して他者の気持ちを推測し、理解する能力や、SSTの人づきあいの仕方やコツを身に付けることは、必要不可欠である。今回の取組を通して対象生徒の変容が見られたことは、難聴を持つ生徒の課題に沿った学習活動として有効であったと考えられる。

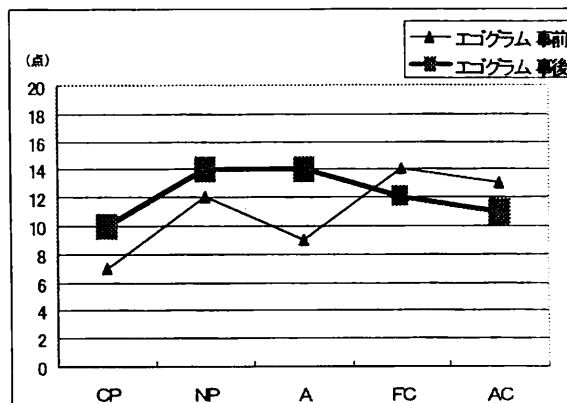


図2 事前と後のエゴグラム

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 道徳の時間にVLFプログラムを取り入れたことで、対象生徒の役割取得能力がステージ0-Bからステージ1へ高まることができた（V-1）。
- (2) 言語学級や島難言研小集団の校外学習会にSSTを取り入れたことで、対象生徒は「相手に思ったことが言える」「自分から誰かに話をしようとする」とドキドキしない」のスキルが上昇し、仲間の入り方のスキルを培うことができた（V-2）。
- (3) 言語・協力学級や島難言研小集団の校外学習会にVLFプログラムとSSTを取り入れたことで、難聴生徒は人間関係形成能力を培うことができた（V-3）。

2 今後の課題

- (1) 対象生徒が役割取得能力ステージ1へ高まっている資料5は、主観的役割取得である。さらに、ステージ2の自己内省的役割取得へ移行できるよう、今後もVLFプログラムの継続指導が必要である（V-1）。
- (2) 対象生徒は人間関係形成スキルの7項目のうち5項目の変容が見られなかった。5項目については、さらに、言語学級で行動リハーサルをし、フィードバックと強化及び定着化が図れるようSSTを取り組んでいく（V-2）。
- (3) 難聴生徒がさらに人間関係形成能力を高めていくためには、協力学級や島難言研小集団の校外学習会等の協力体制を強めていく必要がある（V-3）。

〈主な参考文献〉

- | | | | |
|-------|------------------------------------|-------|-------|
| 荒木紀幸編 | 『道徳教育はこうすればおもしろい』 | 北大路書房 | 1988年 |
| 渡辺弥生編 | 『「こころの顔」難聴シリーズ② VLFによる思いやり育成プログラム』 | 図書文化社 | 2001年 |
| 國分康孝監 | 『ソーシャルスキル教育で子どもが変わる 小学校』 | 図書文化社 | 1999年 |
| 文部省 | 『中学校学習指導要領解説 道徳』 | | 1999年 |